

現在、新型コロナウイルスの流行を受け、子ども達の安全対策をするべく、話し合いを重ね対応をしております。新渡戸文化子ども園が、保護者様からアンケートなどで頂戴しております「丁寧な保育」に基づき、「丁寧に」対策を実施しているところです。保護者の皆様にはご協力いただきまして心よりの感謝でございます。このような状況だからこそわかる保護者様とのつながり「信頼関係」を以降も大切にしたいと毎日学ばせていただいております。

子どもたちともお互い学び合い支え合っています。

あるお子様から

「園長先生は怖くないの？」と「なにが？」

「コロナ怖くないの？」と、「怖いよ。こないだ皆のところに来た節分の鬼ぐらい怖い。」
「お母さんが怖いって言ったんだ。」と、「怖いのはしょうがないよ。大人だって怖いこともあるもの。私にもたくさん怖い人もいるし、怖いこともあるよ。しょうがないんだよ。鬼が来たときにも言ったよね。そしたら涙をこぼしながら聴いてくれたよね。この広い世界には、楽しいことがほとんどだけど、時々そうでないことも起こるから。そんな時は、周りの人と話をいっぱいして、どうすればいいか考えて、考えたら、すぐ、やらないといけないんだよ。だって時間がたったらどうすることもできなくなるかもしれない。だったら早くやったほうがいいよ。その時、それが失敗だったら、また周りの人と話をいっぱいして、また考えてすればいいんだよ。大事なのは、やってみようという勇気だよ。勇気は、ここ（心）にあるやってみようという心だよ。だから、今はxxくんは、周りの大人の人たちがしっかりと勇気を持ってやってみようと、考えて、すぐ、やってくれているから大丈夫。安心してね。私も怖いけど、新渡戸には、勇気のある人がたくさんいて、皆で話をして、やっぱり違うともう一度やり直しをして、また話をして、すぐに考えたことをしているから、怖いけど心配じゃないよ。」

「だから、怖いけど笑ってるんだね。」と、「xx先生（担任の先生）は笑ってる？」

「うん。笑っている。やさしい。」と、（涙）「ありがとう。」

（その存在そのものや言葉に励まされるよ。ありがとう。）と心で思いハグしました。

もうすぐやってくる、東日本大震災の9回目のその日。そして、それ以外にも様々に起こっている自然災害。心からの「黙禱」をしたいと思っています。今回のコロナは自然現象とは違うかもしれませんが、野生の動物から発生したとしたら、近年起こっている事は、自然から私たちへの「物言い」がついたのかもしれないね。

そんな時代だからこそ、自然には敵わないと「自然に対する畏敬の念」を幼児期から育むことはとても大切です。それを持つことが、自分の身を守り、安全な社会生活を送れる基本だと考えております。

今年の卒園遠足は、プロジェクト保育で、子供達が第一希望を昭和記念公園、雨天の場合はスカイツリーという選択を自分たちでしていました。子ども自身で様々なことも決めていました。昭

和記念公園は、密閉された空間ではないということで、晴天の場合は行くことにしましたが、雨天の場合の場所を変更せざるおえなくなりました。スカイツリーに関しましては、密閉された空間であることを勘案し、リスク回避という点から園で行うことにしました。代替えの行き場所を10日間先生方で検討しましたが、どこも密閉性が高く、また、貸切が難しいという結果でした。そこで、園にて先生方のプロジェクトが立ち上がり、急ピッチで園での特別感が持てる「スタンプラリー」を準備する計画を立てました。子ども達のためにと先生方が知恵を絞りながら必死で頑張っていました。さすがに、急な変更だったので先生方にも疲労の様子が見えました。

子ども達とは、この事情をしっかりと話し合いました。「プロジェクト保育とは、皆ですべてのことを考え決め、実行し振り返る。そして、うまくいったことを喜び合い、うまくいかなかったことを前向きに受け止め、次にどうすれば良いかに学びを見出す。」ということなのです。先生方が必死で考え準備している姿や、当日、雨天の場合に目にするスタンプラリーの出店は、きっと驚きや喜び、笑顔と共に「そこに先生の背中を見て学びを見つけられる年長組に育っている」と、私は信じていました。

すると、実際は子どもたちが先生方を助けてくれました。「お化け屋敷」等々、年長さんが自分たちで、年少中のお客様をご招待したのです。驚きました。先生方の背中を見て、予定通りに、思い通りにいかなかった時、どんな風に気持ちを切り替え、前向きに軌道修正をしたか？その事実そのものから、プロジェクト保育の学びがあるのかと思っていました。**しかし、気持ちが切り替えられなかったのは大人だったのです。**子どもの方がとっくに次に進んでいたのです。これには先生方と共に驚き「また子どもから学んだね」と、疲労困憊の先生たちも大いに励まされていました。

結局は、遠出することを中止とし、園での卒園遠足となりましたが、それに対して保護者も先生方も協力体制で子どもたちを囲むことができたので、当日の子どもたちの笑顔と生き生きは、自分たちで作り上げた自信に満ち溢れていました。こんな状況でやりきった子どもたちはもちろん先生、そして年長組の保護者を心から誇らしく思いました。

さて、来年度の年中さんの宿泊保育はどうでしょうか？園で行うということで、子どもたちは初めての経験ですから、前を向くどころか、なにをしようかと今からプロジェクト保育で作り上げていくのが待ちどろしい様子です。

保護者様アンケートの中に「宿泊保育とプロジェクト保育は別物です」とご意見頂戴しました。子どもたちの意気込みを見ていると、先生方が進めているプロジェクト保育で、子どもたちがなにか大きいことを自分たちで決めていくんだというワクワクの様子が見え「プロジェクト保育の宿泊保育だから楽しいんだろうな。」と、感じました。

保護者様アンケートの中に「宿泊保育とプロジェクト保育は別物です」とご意見頂戴しました。子どもたちの意気込みを見ていると、先生方が進めているプロジェクト保育で、子どもたちがなにか大きいことを自分たちで決めていくんだというワクワクの様子が見え「プロジェクト保育の宿泊保育だから楽しいんだろうな。」と、感じました。

今年度の年長宿泊保育のように、（遠くに行こうが園に泊まろうが）自分たちで決めた宿泊保育を経験したからこそ、卒業式の練習もままならないこの混沌とした状況の中、自分自身で考えて「静かに」と、先生がなにも言わなくてもお式になっていくんだなど、昨年に引き続き、プロジェクト保育の教育効果に驚きを感じます。自分が若いときにしていた保育「こうしなさい。」「あしなさい。」と言わなくても自分で考えて式に参加できているのです。**本当に驚きしかありません。**

そう考えていくと、宿泊保育や他イベントも、全てプロジェクト保育での経験が大切なのだと痛感いたします。そこから学びを積み重ねていくことで、卒園式のような厳かなイベントにも、自

分で考えられる子の姿になるのだと、2年続きのプロジェクト保育の教育効果に確信を日々強めております。

大変恐縮ですが「宿泊保育とプロジェクト保育は別物」ではなく「宿泊保育をプロジェクト保育で進める」ので、完全に別物とは言えないというのが先生方を含め私もそう考えています。

先生方はどうでしょう？子どもたちのように、宿泊保育の事に前を向けているのでしょうか？

「はい。どうしてかという、自分はこのようにプロジェクトの方法で学生時代に旅行に行ったことはないけれど、自分でも経験したかったです。きっとそれは、どこでもいいんだと思います。仲の良いお友達と先生と一緒に夜を過ごす事に意味があると思うので、その内容をどれだけ充実させるかだと思います。今年の年長さんの卒園遠足のように、私はがまんしてなにも言わない。待つ。やってみたくなさそうな子には、（とりあえずやってみよう。やってみたらきっと楽しいよ。）と幼稚園教育の真髄で誘ってみる。そして（本当だ。皆で決めると、自分で選択すると楽しい。）と思えるよう導き出すことが大切だと思うんですね。」

「小学生の時に、お友達の家にお泊まり行っただけで、カレーを食べさせてもらっただけで、お友達のお母様が素敵に見えたんです。子どもの気持ちってそうじゃないですかね？わざわざ、どこか行かないと、と思う事自体が時代遅れだと思います。今は家族で海外旅行や行きたいところにいつでも行ける。でもお友達や先生とは最初で最後。どこでもいいんだと思うんです。一緒に夜を過ごし、自分たちで考えた事で達成感を味わい、そしてやりたくないと思う子は丁寧に先生が励ましてあげ、とりあえずやってみたら楽しかったと過ごせれば。」

なるほど。勉強になるな。もうしっかり前を向いていますね。

お母様方はいかがでしょうか？「上の子の時は、xxに行ってたのに、、、」「なんで園なの？時期をずらせばどこか遠くに行けることできるんじゃないの？」と過去に囚われている方はいらっしませんか？前を向けずに後ろを向いていませんか？お子様や先生方の前を向き、どうしたらよいかと工夫して考え始めている姿をどう思いますか？それでもやはり「ご自身の希望」をお子様にしてもらいたいと思いますか？

「前を向いて進んでいる子どもの希望」は？

そういう意味では、年長組さんのお子様と保護者様は、晴天でも、結局は昭和記念公園へ遠出できず、園で行う結果となりましたが、先生、子、保護者様と共にしっかりと工夫し、お互いに理解、協力しあえたので前向きになれる「心」がお子様の中に育ったのではないかと思います。

お子様方のご成長の中で、コロナウィルスのように、誰にもどうしようもない出来事が起こり思い通りにいかなかった時、どんな風に気持ちを切り替え、前向きになれる「心」が持てるのか。一緒に考える良いチャンスだと思います。ご家庭でも話し合ってみてください。そして、この機会を親も子も、そして先生も共に育つ（コロナというピンチではありますが）「共育」のチャンスであると私は考えています。

「ピンチはチャンスでもあります」

そして、新渡戸文化子ども園の子ども達も保護者様も、先生方と共に「一丸」となって、何事も乗り越えられると、私は信じています。

本年度も1年間、子ども達のためにと「親心」を持ってベストを尽くしてまいりました。至らない点多々あったかと思えます。そんな時も、何も言わずに温かく見守って下さっている保護者様を規範とし、わたくしたちもお子様へ学びを押し付けるのではなく、温かく見守り自分で学べるような子を育ててまいりたいと思っております。

「本当は、家にいて子どもと一緒にコロナから逃げたいけれども、私の仕事を待っている方達がいるので、先生方もがんばっているのです、私もがんばります。」と涙ぐみながらお話ししてくださったお母様に、ついbig hugしたくなりました。そんなお母様方だから、私たちはお支えをしたいと思うのです。そして、それによってその待っている方々が救われたとしたら、私たちは、その方々を救った事に間接的に関わらせていただいている事に、誇りと使命を感じております。

こんな時だからこそ、保護者、先生という垣根を越えて皆で支え合えるところに、子供たちは、きっと「大人」や「社会」への信頼を増し「夢」を大きく持てるのではないのでしょうか？

心からそう願っています。

皆様のご協力に重ねて感謝申し上げます。「ありがとうございました。」

令和2年 3月5日(木)

新渡戸文化子ども園 園長 鈴木恵美子